



村職員が被害状況を見回り危険箇所には通行止めなどの対策を実施。



民家でも外壁の損傷や屋根瓦の落下などが相次ぎました。



地震によって屋根瓦が壊れた村役場。庁内書類などが散乱しました。

特集 1

3.11の飯舘村で

平成23年3月11日の東日本大震災から、間もなく14年が経とうとしています。震災対応や避難の経験を次の世代にどう伝えていくか、自然災害が頻発するようになり伝承の重要性が増している一方、時間の経過と共にその難しさもまたクローズアップされています。「3.11」を前に、4組の方に、発災時の体験と、現在に至る道のりをお聞きしました。振り返って知ること、伝え合うことの大切さを改めて感じさせられるエピソードです。



卒業式の日の大震災

株式会社テクノ芳賀の芳賀英幸さん(白石／右)と村の職員として働く高橋亮一さん(上飯樋)。

2人は震災の日、飯舘中学校を卒業した同級生で、今も親しく連絡を取り合っています。

芳賀さん「地震が起きた時は、卒業記念に友達と福島市に遊びに行っていて、店内が騒がしくなり急いで外に出ました。親の車で家に帰り、業務用の発電機を使って停電の夜を過ごしましたが、大人は大変だったと思いますが、自宅に帰れなくなった友達が1週間ほど泊まっていた、楽しい思い出も残っています。

白石地区は比較的早く停電が解消されましたが、暖を取るために炭を焚いたりもしました。近所の人が集まって一緒に過ごす日もありました。

福島市に避難して高校生活を送り、成人してから、父と姉が経営してきた会社を継いで、3年前に結婚しました。上飯樋に作業場を借り、熟練の従業員と共に、建築系の溶接の仕事をしています。出張も多い仕事ですが、現在は村内の仕事が多くなっています。村の景色が好きで、仕事で村内を通ると、景色と共に昔の思い出が蘇ってきます。

高橋さん「地震の時は自宅の居間にいました。天井のライトがぐらんぐらん揺れてコタツに隠れたら、ばあちゃんに「外さ出る」と言われて。地割れというものを初めて見ました。停電になり、夜はロウソク1本で過ごしました。

その後一次避難で1か月程、会津若松市で暮らしましたが、友達と一緒に地元の高校に通いた

かった。何とか福島市に避難先を見つけてもらい、進学しました。祖父母と分かれて暮らすようになり、飼っていた犬は県外の人に引き取ってもらいました。普通に高校に通うことができ、特に苦労を感じることもなく歩んできました。中学時代の友達とは今もよく会っています。村を離れた人の方が大変だったかも知れませんが、私は村が好きです。勤務先の復興拠点から、村を盛り上げていきたいと思っています。



3月11日は飯舘中学校の卒業式の日でした。この後、午後2時46分に大地震が発生しました。

牛農家の避難



佐藤照子さん(飯樋町)。現在は飯舘村社会福祉協議会の生活相談員として村民を支えています。

我が家は乳牛農家で、和牛も何頭か飼っていました。2人の息子はすでに県外で就職していて、娘は4人の子どもを育てながら村内で働き村営住宅で暮らしていました。牛の世話は、夫と義母と私の3人でやっていました。震災の日、近所の人に来ておしゃべりをしていて、大きな揺れが来ました。小学生の孫を学校に迎えに行くと、子ども達は校庭に出て、先生方がブルーシートで子ども達を囲んでくれていま

した。停電になり、その夜は1台の石油ストーブで、娘家族も一緒に過ごしました。ガスは来ていたのですが、ご飯は土鍋で炊きました。

原発事故の影響で、牛乳の出荷ができなくなりました。搾乳機を発電機につないで絞った乳を、捨てざるを得ない毎日が続き、飼料屋さんもエサを運ばなくなり、牛農家はどこも大変だったと思います。

計画的避難区域に指定され、牛の処分の話になりました。当時は補償があるかどうかも分からないまま。部会で集まって話し合い、役員さんが東京へ陳情にも行きました。5月いっぱい乳牛の処分をして、お腹にこごりがある牛は二東三文で県内の農家に買ってもらい、和牛はせりに出しました。

こうして話していると当時の戸惑いや悔しさや辛かった気持ち、今も残っているのを感じます。まずは娘家族を、息子がいる千葉県に避難させることになって、皆の車からガソリンを集めて、米



5月11日にいちばん館で「計画的避難に伴う家畜の今後の方針に係る説明会」が開かれました。

を持たせて送り出しました。牛がいなくなり私達が避難したのは7月でした。夫は見守り隊に出て、私は知人に誘われ社会福祉協議会で働き始めました。私自身も飯舘の人と話したかったのが一歩を踏み出した理由です。転々と避難をした娘家族は、子どもの入学を機に飯野町に戻り、今では孫達もすっかり大きくなりました。私は村の皆さんの力になれるよう、やりがいを持って仕事を続けたいと思っています。